

「アメリカザリガニ調査会」(平成30年6月24日開催)

本日は「おけがや自然塾」の行事と兼ねて開催したため、自然塾の子ども達とその保護者も加わり、一般参加者と合わせて76人の参加がありました。

講師の保崎有香さん(NPO法人桶ヶ谷沼を考える会)は、大学時代にアメリカザリガニの研究をしていた専門家で、現在も定期的に桶ヶ谷沼に足を運び、アメリカザリガニの調査研究をしています。

1 講師から事前説明

はじめに講師からアメリカザリガニの生態(せいたい)やアメリカザリガニの捕獲(ほかく)のために仕掛けたトラップにかかるアメリカザリガニ以外の生物についての説明がありました。

アメリカザリガニはウシガエルの餌(えさ)として輸入されて以来、全国的に池や沼で繁殖(はんしょく)が広がり、在来生物に大きな影響を与えています。桶ヶ谷沼でも異常繁殖した時期があり、アメリカザリガニが沼の中だけでなく、沼のまわりの道路などにもたくさん見られる状態になりました。その翌年にはベッコウトンボの数が大幅に減少してしまいました。アメリカザリガニは小さいうちはヤゴなどを食べていますが、成長すると沼の底にたまった落ち葉も食べるようになり、またヤゴが隠(かく)れる水草のヨシやマコモをハサミで切ってしまいます。

トラップにかかるカメやウシガエルのオス・メスの見分け方やライギョについても説明がありました。ミシシippアカミミガメやライギョは外来生物であり、増え過ぎることは好ましくありませんが、一方でこれらの生物はアメリカザリガニをよく食べるため、アメリカザリガニの減少に役立っています。

2 沼で捕獲(ほかく)・調査

次に、参加者を4グループに分けて、トラップを仕掛けた場所へ行き、実際に沼で捕獲(ほかく)・調査を行いました。最初にトラップ周辺の水草や落ち葉の状態を観察し、水の深さを測りました。トラップを引き上げて、かかった生物の種類、数を野帳(ノート)に記録しました。また、同じ場所で子ども達がたも網ですくい取った生物の種類、数も野帳(ノート)に記録しました。

3 ビジターセンターで集計

沼で捕獲(ほかく)した生物をバケツでビジターセンターに持ち帰り、種類や数を確認しました。アメリカザリガニはサイズをノギスで測り、大・中・小に分けて集計しました。カメ類ではイシガメ、クサガメ、スッポン、ミシシippアカミミガメが捕獲(ほかく)されました。また、すくい上げた水の中には、ヤゴ、ミズムシ(フーセンムシ)などが多数見られました。

1 講師から事前説明



2 沼で捕獲（ほかく）・調査



3 ビジターセンターで集計

